

設備機器の熱効率等チェックリスト

- Webプログラムを用いた一次エネルギー消費量の算出の際に、設備機器の効率等を確認する必要がある主なものについてリスト化しました。
- 性能値が確認できない場合は、Webプログラムにおいて「特に省エネルギー対策をしていない」「入力しない」等を選択します。

暖房・冷房

種類 ^{*1}	確認事項	性能値	備考
ルームエアコンディショナー	定格冷房エネルギー消費効率 ^{*3}		「定格冷房能力÷定格冷房消費電力」と同じ ^{*3}
FF暖房機	エネルギー消費効率		定格能力における効率
温水式暖房の熱源機 ^{*2}	—	—	該当する放熱器 ^{*4}
石油熱源機	エネルギー消費効率		定格能力における効率
ガス給湯機(従来型)	エネルギー消費効率		定格能力における効率
ガス給湯機(潜熱回収型)	エネルギー消費効率		定格能力における効率

*1:「ダクト式セントラル空調機」「電気ヒーター式床暖房」「電気蓄熱式暖房器」については性能値の入力不要。

*2:温水式暖房における「電気ヒートポンプ式熱源機」「電気ヒーター式熱源機」「コージェネレーション」については性能値の入力不要。

*3:ルームエアコンディショナーを暖房に用いる場合においても、定格冷房エネルギー消費効率を確認する。

*4:パネルラジエーター、温水床暖房、ファンコンベクター

換気

種類	確認事項	性能値	備考
ダクト式第一種換気設備 ^{*1}	比消費電力		「消費電力÷設計風量」と同じ
熱交換を採用する場合	有効換気量率 ^{*2}		1)又は2)を満たすことを確認する。
	温度交換効率		1)有効換気量率85%、かつ温度交換効率65%であること
	補正温度交換効率		2)補正温度差係数58.8%以上であること
ダクト式第二種(又は第三種)換気設備 ^{*1}	比消費電力		「消費電力÷設計風量」と同じ
壁付け第一種換気設備	比消費電力		「消費電力÷設計風量」と同じ
熱交換を採用する場合	有効換気量率 ^{*2}		
	温度交換効率		
	補正温度交換効率		
壁付け第二種(又は第三種)換気設備	比消費電力		「消費電力÷設計風量」と同じ

*1:比消費電力が不明な場合は、ダクト径75mm以上か否か、モーターが直流(DC)か否かの入力でも可。

*2:熱交換を採用しない場合は、1.0とする。

給湯

種類 ^{*1}	確認事項	性能値	備考
ガス給湯機	JIS効率(モード効率/JIS S2075)		エネルギー消費効率と異なる。*2
石油給湯機	JIS効率(モード効率/JIS S2075)		エネルギー消費効率と異なる。*3
電気ヒートポンプ給湯機 ^{*5}	JIS効率(年間給湯保温効率、又は年間給湯効率/JIS C9220)		年間給湯効率(APF)と異なる。*4

*1:「ヒートポンプ・ガス瞬間式併用給湯機(ハイブリッド1)(ハイブリッド2)(ダブルハイブリッド)」「電気ヒーター温水器」については性能値の入力不要。

*2:「ふろ給湯機(追炊きあり)」の場合:JIS効率=エネルギー消費効率-6.4%

・「給湯単機能」「ふろ給湯機(追炊きなし)」の場合:JIS効率=エネルギー消費効率-4.6%

*3:JIS効率=エネルギー消費効率-8.1%

*4:「ふろ給湯機(追炊きあり)」の場合:JIS効率=年間給湯効率(APF)-0.7

・「給湯単機能」「ふろ給湯機(追炊きなし)」の場合:JIS効率=年間給湯効率(APF)-0.5

*5:寒冷地仕様の機器を用いる場合であっても、寒冷地年間給湯効率ではなく年間給湯効率又は年間給湯保温効率を確認します。

太陽光発電

種類	確認事項	種類・性能値	備考
太陽電池アレイ	種類		結晶系か、それ以外かを確認
	システム容量[kW]		

コージェネレーション

種類	確認事項	記号	備考
コージェネレーション	区分		品番から確認する。